

中斎塾 東京フォーラム
平成 27 年度 第 3 回講話

平成 27 年 3 月 14 日
於 湯島聖堂

おはようございます。ちょうど今この場所は、明るいから暗闇にして喋ってみようと思います。カーテンを閉めてやってみましょう。

なかなか良いですね。なぜ暗くしたか、谷口幹事から説明してください。

(谷口幹事) 暗いと、皆さんが聞こうという姿勢や、よりコミュニケーションなども高まります。暗い中だと落ち着いてきますが、けっして暗くしても寝ないようによろしくをお願いします。

暗いままでちょっと喋ってみましょう。数年前に善光寺参りをいたしました。善光寺には御戒壇巡りというのがあります。いわゆる胎内巡りです。地下に行くと真っ暗で、漆黒の闇。今この場所は、薄明かりがやっぱりありますから、だんだん皆さんの顔が見えてきます。

真っ暗の中だと目が見えない。目が見えないと五感が鋭く研ぎ澄まされてきます。美人であろうがなかろうが関係ない。心の綺麗な人が綺麗な言葉を出す、そう思って自分の心を磨いておれば良い声が出ると思います。

以前、木内顧問の集まりの時に申し上げたことがありますけれども、「美味しい旬を食べる会」で、隣に座った方がディズニーランドの役員の方でした。私は、その方に「ディズニーランドは壮大な自転車操業で、もうそろそろ危ないですね」という話をいたしました。そうしましたら、その役員の方は「おっしゃる通りです。我々は今、非常なる危機感を持っています。経営層と社員の方との意識の乖離が凄まじいです。ディズニーランドは次から次に新しい箱物を造らないとお客様が来てくださらない。ディズニーシーも、もう土地が無い。これから土地の限界がきたところでどうやってお客様をおよびするか、どうやって今後も発展させていくか、経営陣は壁に突き当たっております。自転車操業と言われますけれど、我々もそう思っております」ということです。それで「ディズニーランドは、目で見次から次に新しい物を造るから、限界がくるのは当たり前のことでしょう。目で見えない状況にして、五感で感じるような何か新しいイベントをお考えになったら、いかがですか」というアドバイスをさせていただいた記憶があります。「検討させていただきま

す。良いご提案です」と言っていました。やりませんね。まだ出来ていないです。

先週、大阪にある USJ のハリーマスターの館なるものに行き来しました。家内と一緒にきてきたけれども、まあこれが若者で溢れていました。写真を撮ったり色々と周りを見たり聞いたりしましたけれども、どうしてもおかしいなという違和感を持ちつづけてきました。働いている方々は非常に訓練されていて自発的にお客さまに喜んで貰おうというサービス精神はとて溢れていました。でも、ふとディズニーマンドの後追いをしていると感じましたし、これが何を生むのかな、こういうことは人類の為になるのかなと、何か非常に不思議な思いをして帰ってきました。

今、私共は目で見えるものが全てだという世界に生きていますけれど、目で見えない世界もある。これをそろそろ考え出しても良い時期かなと考えます。それについては谷口さんの方に、その内ふります。今、頷いているのが見えませんでしたので後で説明をちょっとしてもらいます。じゃあここで暗闇を止めてカーテンを開けましょう。

(竹岡会員) 私からも言わせてください。私の友人の御子息がドクターで、特に目の見えない方達をどう助けるかという活動を長い間やられている方がいます。真っ暗の中で食事をしたり買い物をしたり、それから道を歩いたりというコースが設定されておりまして、案内役は全盲の人です。目が見える私達が真っ暗な中で食事をし、道を歩くという体験をすることによって、もの凄いい気づきがあります。機会があつたら是非案内を貰っておきます。今の課題は、夜 9 時以降に信号機の音が近隣対策で鳴らなくなる。全盲の人が命がけで横断歩道を渡る。本当に道路を渡るのが大変で何とかしてくれという陳情をうけました。ちょうどこの前、行った時に言っていました。以上でございます。

有難うございます。竹岡さんの課題、とてもよい話です。

(谷口幹事) ちょっと御紹介ということで、ここの体験は企業研修などにも使っているだけであります。一度体験していただくと、見えるからこそ見えていないもの、見えなから見えるもの。さっきの五感もそうですけれど、色々な意味のコミュニケーションは、やっぱり協力体制がないと実際、物事が出来ない。それを体験することによって他の連係が強まるのではと企業研修などに使っているだけで、良いかなと思ひまして前回塾長に資料を渡しました。

はい。有難うございます。

恒例の質問

- ・今月は比較的良い日が続いた方。

心持ちを、そういう方向に持っていけば、良い日は続いています。どうぞ良い日でないと客観的に見るような方も、その心持ちでどうぞ。

・ 今月、健康法を実践している方。

私が実践しているのは、体の健康法と心の健康法。健康というものは康心健体。真向法で康心健体と、よく言っています。

・ 真向法をご存知の方は？

結構いらっしゃいますね。安岡正篤先生が真向法を推薦しております。ちなみに今、人の名前を出しましたが、中斎塾フォーラムで話をさせていただく中で、人の名前、先生方の名前を出す時には、だいたい集約されています。

今、安岡正篤先生のことを言いましたから、総合的直感力とおっしゃられています木内信胤先生、それから中村天風先生。ここの御三方のお名前はちょこちょこ出ていますし、今後も出すようにします。

・ 今年に入って自分を磨いていると思われる方、または自分磨きを実践中。

有難うございます。自分磨きを実践しておられるのは非常に良いことです。どう自分を磨くかということは、色々な本にたくさん書いてあります。自分の心の中にも、たくさん入っていると思います。どうぞ磨いてください。

テーマ

人間社会の崩壊 ― 飢餓 ―

先程申し上げた USJ に行ってきましたが、なぜ行ったかと申せば、木内顧問がフィンランド国から頼まれてムーミンのテーマパークを造ることが頭の中に残っていたので、行ってみようかと思いついたのです。そうしたら周りの人に聞いても行っても見られませんよ、入れませんよと言います。駄目ですよ、駄目ですよ、と言われると何故か行ってみたくなる。実際行ってみたら、すんなりと入場券も購入できハリーポッターの館の整理券が貰えた。それでハリーポッターの中へ行ったら長い行列がありましたので「これは何ですか」と聞いたら「このアトラクションを見るのに 2 時間から 3 時間待ちです」と言われて、それは勘弁だと思って出てきましたが、それらを見ていて、どうも世紀末の様相を体しているなという感じがしました。ディズニーランドの時は、あまり感じませんでしたけれども、ハリーポッターの時は感じました。ハリーポッターの映画は、けっこう面白かったのですけれどもね。他に大阪の適塾にも寄り、静岡県の二宮尊徳の報徳社、それから名古屋の北区役所に行ってきました。その理由はサツマイモです。今回の紹介書籍『食べ過ぎて滅びる文明』に繋がります。

紹介書籍

『食べ過ぎて滅びる文明』 西丸震哉著 角川文庫

本を回します。似たような本は何冊も出ています。たまたま書棚にあったのを持ってきました。

皆さんの御先祖様、食べられない時代があったかと思います。最近は食べられるようになったから、最近といってもここ 2~300 年かな。その集大成が今あなたの体になっているのだと思います。人類の長い歴史で、お腹が減っているのは当たり前。人間の体は、いつも飢餓状態にある。つい最近の人類は、食べられるようになり満腹状態。いつでも満腹になる珍しい時代に今生きているわけです。やっぱりそうになると、時々飢餓の状態ということを経験しななきゃならないという回りあわせがあると思います。日本は終戦直後に経験しました。終戦直後にサツマイモで生き延びる経験をした人達は、その結果サツマイモ・芋・カボチャを見るのも嫌という人がいます。その人達も、もう一回それにぶつかる事になるかもしれません。もうあれは食べたくないと言っていましたけれども、人間社会の崩壊が起きましたら、食べ物は減るでしょう。食べ物が無くなったら、人間は生きてはいけません。前から申し上げているように資本主義という時代がもう既に終わっている。今はその余韻が残っているだけです。何故ならば、人間が多すぎる。日本の総人口は約 1 億 2 千万人ですが、最近は 8 千万人から 9 千万人ぐらいの人口が適正規模だと学者の話が集約されてきています。そうすると、どういう具合で日本人の人口が減るのか。少子高齢化があるでしょうし、自然災害、伝染病、それから戦争で大量に日本人が亡くなる時代ということが目前だと思いますので、比較的若い世代が早く亡くなるようです。それでサツマイモで生き延びるようにしたいと思い、芋類研究会の井上浩会長にお会いしました。会長から色々教えていただき、私は陽明学を標榜していますから、即行動で現地に行きました。

さっそく「芋区長さん、おられますか」と尋ねて行きましたら、担当者は「15 年前におりました。それから何代も区長が代わっておりまして、今はサツマイモをどうやって振興させればよいのか、息も絶え絶えの状況になっています。芋区長の頃は盛んでしたけど、今は消滅しかかっています、何か良い御知恵ございませんか」と、逆に聞かれました。それで私反省しました。デフォルトを起こした国々を見てみたいと思って、数年前に色々な国に行って確認しましたが、どんどん情報は古くなります。時々自分の経験の棚卸もしなければいけないなと思いました。

自分の体験話も 5 年 10 年経つと、もう古くなってしまいます。ですから人様にお話しをする時は、体験話と同時に現時点でどうなのか、少なくともここ 1~2 年でどうなのかを確認してからでないと、時事評論的なものは難しいと感じました。それが今回の反省です。

<功名は多く窮中に向いて立ち 禍患は常に巧処より生ず>

陸游「史を読みて」の一節から、洪澤栄一が87歳の時に書かれました。如水会館にコピーが飾ってあるそうです。もう一度、見直しをしました。

解説も功名は困難の中から生まれますと、さらっと書いてありますが、困難の中から生まれるのではなく、素晴らしい功績、成功は困難に陥った時に、立ち向かう勇氣、姿勢から生まれる。苦しい苦しいと言って下を向いていないで、前を向いて諦めない心で立ち向かうとエネルギーが湧くわけです。これが下を向いて嵐が通り過ぎるのを待っているだけではエネルギーは湧きません。

ちょっとお聞きします。実際に手を挙げないで、心の中で手を挙げてください。

・利益、収入…お金が今よりもっと欲しいと思う方。それから名誉、今よりもっと良い肩書きが欲しいという方。

心の問題ですので、手を挙げなくてよいです。

今度、詩吟の大会がありまして、佐藤一斎の『漫言』を私は言葉の内容が良いと感じて選びました。

西郷隆盛や勝海舟も名誉や収入など強く言わなかったそうですが、「世の中で始末に困る者は、名誉は要らない、金も要らない、命も要らない。そういう人間がまあまあ厄介なものだ。でもそれでなければ大きな仕事は出来ない」という話があります。明治政府が成立をして、西郷隆盛はお給料をたくさん貰いましたが、お給料は人のために使ったそうです。

考えてみれば、名誉も収入も嫌になるほど入ってきてからだと、名誉や収入も要らないと軽く言えます。でも、名誉も利益も欲しいと思っている間は、やっぱり大きい仕事が出来ないと感じます。名誉と利益を求めている間は、まだまだ、たいしたことがない。それを超越してしまえば良い人生が待っていると感じます。

我々は「足るを知る」とは、よくいかなるものかを積み上げ、出来ればその心境にいたる。「足るを知る」は、『漫言』の中に出てきますから、これは味わっていただくと良いでしょう。名誉とか利益、これに執着している間は、色々と多くの問題が自分自身に降りかかってくると思えばよいでしょう。

論語の視点 <子路 第十三>

【一四】冉子 朝より退く。子曰く、何ぞ晏きやと。対えて曰く、政有りきと。子曰く、

其れ事ならん。如し 政 有らば、吾を以いずと 雖も、吾 其れ之を 与り聞かんと。

この時、孔子が 68 歳ぐらいで冉子が 39 歳の頃の話なので、父親が息子に言うぐらいの年代であると考えればよいでしょう。

孔子は然るべきポジションに就けず、腕を奮えなかつたので塾を作り教育をしていました。塾生に冉子がいると捉えればよいでしょう。

冉子は会議から帰って来て、父親のような年代の孔子が「お前は何でこんなに遅いのかね」と聞きました。「政治に関する会議に出ておりました」と返事をしたので、孔子は「公の会議に出たのではなく、それは家臣の会議だ。もしも本当に政治で大きな問題があったら、私は呼ばれるはずだ。私が知らないということは、国家としては大きな問題ではないと考えなさい」と話しました。

孔子がちょっと愚痴をこぼしているなと思って、私はここを読みます。

安倍総理は、小泉純一郎さんとは師匠と弟子と言っているにも関わらず、安倍さんから相談を持ちかけられないですよ。小泉さんはポンポン言うタイプですから、最近では安倍さんに対して小泉さんは色々批判を言っています。

現代に置き換えると「日本にとって大事な問題であれば、私は当然呼ばれて然るべきだ」と。森さんは総理大臣の時はパツとしないけど辞めてから、うるさいですね。呼ばれて喋るのではなく、呼ばれないのに喋っている。小泉さんは、呼ばれれば喋ろうというスタンスだったけれども、勝手に喋り出しています。息子が独り立ちしたって実感があるからじゃないですかね。ということで、ここは孔子の愚痴です。

【一五】定公問う、一言にして以て邦を興すべきもの諸れ有りやと。孔子对えて曰く、言は以て是の若く其れ幾すべからず。人の言に曰く、君為ること難く、臣為ること易からずと。如し君為ることの難きを知らば、一言にして邦を興すことを幾せざらんやと。曰く、一言にして邦を喪すもの諸れ有りやと。孔子对えて曰く、言は以て是の若く其れ幾すべからず。人の言に曰く、予 君為ることを楽しむ無し。唯その言いて予に違ふこと莫きなりと。如し其れ善にして之に違ふこと莫くんば、亦 善からずや。如し不善にして之に違ふこと莫くんば、一言にして邦を喪すことを幾せざらんやと。

「一言にして以て邦を興すべきもの諸れ有りやと」

こんな都合の良い話があるかと思いますが、でも似たようなことは、あると思います。

近江商人の「三方よし」など良いと思います。売り手よし・買い手よし・世間よし、全部その中に入っています。

「言は以て是の若く其れ幾すべからず。人の言に曰く、君為ること難く、臣為ること易からずと。如し君為ることの難きを知らば、一言にして邦を興すことを幾せざらんやと。」

何か回りくどいことを言っています。少しは自分で自覚しなさいという意味があるからだと思います。一言で国を興す言葉は無いけれども、無いと簡単に言ってしまうと困るので、君主になるのは難しいし、素晴らしい家臣になるのも簡単ではない。ただ君主であることが難しいと思えば、あちらこちらに氣を使うことになるから悪くはないでしょう。

ここはヤマト運輸の社長が、宅急便を始めた時に自分の考えを社員に伝えることが最大の難関で、コミュニケーションが一番難しかった。それから考えれば、荷物を時間制にすることは非常にやさしかったそうです。配達する人達の話を取り上げたら「不在の時ばかり来る」と、お客さんからの文句がたくさんある。それなら配達時間を午前中と、午後の時間を 2 時間刻みで分けていく。クレームを一所懸命に考えて分析して、変えていったら他も採用し始めた。

会社の社長が社長業というのは難しいなど、つくづくどこかで分かっていたら、資金繰りが大変だとか社員は何に困っているとか、色々なところに氣配りするから良い。大変さの意味が分からなくなったら、お終いだと思います。

「一言で滅ぼすものはあるか」と、定公がそういうことを聞くということは、やっぱりそれなりに氣にしているから聞くのでしょう。君主が発言した時に、良いこと悪いことに関係なく家臣が反対しなくなって、君主の言うことが間違っているでも全部通ったら、その国は滅びます。

もう亡くなられた方でかなり昔の話ですが、韓国でけっこう大きい会社を動かした人がいました。その人が銀行に行って、可愛い子がいるもんだなと思って女の子を見ていて、仕事の話が終わったから出ようとしたら、呼び止められました。「先程から、あの女性を見ておられたようですけれども、お気に入りでしたか。じゃあ今晚、差し向けましょう」と。普通の銀行です。嘘ではなく本当の話です。10年 20年前の話ではなく、かなり前の話です。私がその話を、その方から聞いて「現実にそういうことがいっぱいあった。すぐ日本人は忘れちゃうから」みたいな話をされました。それで「じゃあ、あの子を差し向けてよ」と言ったら、その会社は潰れるんじゃないかなという氣がします。こういうことを、孔子が定公に対して言ったと受け止めればよいですね。今の日本でこんなことがあるのかと問えば、無いです。だけれども意外と外国を経巡ればありえます。自分の娘や奥さんを夜伽に出すことがお客に対する最大のもてなしだという国もあります。ですから、それが良い悪いということは別にして、現実に世の中にはある。

イスラム国にいたっては、敵対していると勝手に決めた部族を襲って捕まえて、人身売買をしたり、イスラム国に入れば奥さんを娶らせると言ったりして女性を交渉のだしにしています。色々なニュースで見ましたが、二人の女性が捕まって鞭打ちの刑かつねる刑か、

刑罰を受けるのが嫌だったら嫁になるか選べと言われて、一人は鞭で叩かれるのは嫌だからつねられるのだったら大丈夫だろうと、つねられる刑を受けた。もう一人は嫁に行くと言って逃げ出した。つねる刑を受けた子は死んだそうです。現実にイスラム国でそういうことが起こっています。

「一言にして邦を喪すもの諸れ有りやと」偉ぶるなということです。周りに氣配りをしなさい。ただこの中では氣配りだけでは駄目で、世のため人のためになることをしなさい。

澁澤栄一が一生涯貫いたことは、儲けることばかり考えていたら駄目、世のため人のために何をどうするかを考える。金融業は人物を磨かなければ金融業は成り立たない。

税務署が、一所懸命に仕事をすればするほど日本の国を亡ぼすと思っています。税務署が必死になって金集めをすればするほど日本は悪い方向へ行く。これは歴史のしからしめることだと思います。イギリスが覇権国家で無くなった時は、税金の重みに耐え兼ねて国民がそっぽを向いた。アメリカは今、オバマケアなるものが段々アメリカを滅ぼしつつあるだろうと思っています。それが日本に飛んできて安楽死薬が進むであろうと思っています。それが論語の視点から申し上げることです。

時事評論

新聞の読み方で、数年前は民主党の打つ無様な手をよく見ましょう。

自然災害、何が起こるかを見ましょう。

国債の動向を見ましょう。この三つをよく見ましょうと言いました。その時の政権党は民主党でしたから、民主党の打つ手を見ましょうではなくて、民主党の無様な手を見ましょうと申し上げました。自公政権に代わってからは、良いこと悪いことは混ざり合っていますから、自公政権の打つ手はよく見ましょう。

ひとつテーマを持って、長く追いかけていけば、そのテーマがとんでもないところで出てきます。それらを数ヶ月に渡って見続けていると、ふと融合して頭の中で発酵する。そういう見方をしましょうと申し上げました。そうしますと、自公政権の打つ手で見ますと、3月12日（木）朝日新聞で面白いことが出ていました。

公明党の北側副代表が、首相の記者会見での原案を取り寄せて赤ペンを入れた。「与党協議を経た しかるべき時期」を、「与党協議の結果に基づき」と修正。また「憲法解釈の変更が必要と判断されれば内閣の意思を示す」という文字を「憲法解釈の変更が必要と判断されれば、閣議決定していく」と修正。公明党が良いと言わなければ駄目だということで、細かな表現にこだわり、次々と修正していった。赤字を入れた原案を高村幹事長に手渡した。幹事長は大きなところで総理の考え方をええさせるようなものではないからと政府側に渡したので、安倍総理が表明する基本方針の内容が固まった。これで与党協議に入る見通しが立ったと、書いてあります。自公政権の裏側がちょっとこれで透けて見えます。

3月13日（金）読売新聞で、防衛産業育成を狙う。日仏共同開発フランスのルドリアン国防省は読売新聞との会見で、音波探知機や無人機など4分野で日本と共同開発を進める考えを表明した。独自の軍事力を維持しつつ日本との協力を通じて高い技術力を持つ自国企業を支援する国防戦略がありそうだという記事です。

ここから頭に浮かんでくるものは、終戦後の佐藤栄作首相は、国民に非核三原則という言葉をしていましたが、水面下ではアメリカに核装備をしたいと申し入れて断られ、その後ドイツに対して核の共同開発を申し込んで断られた。水面下で揺れたままになったという話があります。ただ世に出さないだけで、日本は軍事装備をしたいという考えを一貫して持っています。それが脈々と続いていて、今度はフランスと共同開発を進めるということは、水面下に流れていたものが表面に出てきたのが、読売新聞の記事になったなと思います。

18歳以上の若者に選挙権をとという話が出ていますが、あれは何のことはない。18歳の若者に選挙権が与えられれば、その先に待っているものは、外国から喧嘩を売ってこられたら、それなりに喧嘩応戦をするための話だと思います。少子高齢化で若者が少なくなる一方ですから、そうした時に徴兵制の復活は先々の視野に入っているはずです。そうすると18歳も視野にあると、私はそう思っています。戦争に巻き込まれることを想定して色々な動きが、だんだん表面化してきていると思います。

もうひとつ私が思うことは、日本の人口が減っていく中で、働き手、担い手はどうなるか。これからの働き手はロボット化に頼ることになる。最先端の技術力ですから、これが日本の国力を維持する、さらに発展させるためにはロボット化を進めなければならない。

今のお医者さんがそうではないでしょうか。「お腹が痛いんですけど」とか言ったら、顔をパソコンの前から上げないでデータだけ見ている。患者がいても見ないで「あなたは、このデータから見ると何とかですね。風邪薬を処方しましょう。はいはい、お帰りください」患者が診察室に入ってから出るまで患者の顔を見ないし問診しない。そういう医者が増えたと感じます。

ヨーロッパ文明が衰退したのは移民を受け入れたからだだと思います。移民を受け入れたがために、どんどん国力が低下していった。日本は移民を受け入れないでロボット化の技術を進めたから生き残ったと感じます。

日本は今後どうなるか。最先端技術を進めるのが8割、7割かな。移民を受け入れねばならないのが2割から3割と、そう思っています。

今回のテーマである「人間社会の崩壊—飢餓—」については、3月13日読売新聞で、日本の食料自給率45%現実路線転換とあります。現実路線転換というのは、ギブアップの方

向に進んでいるということでしょう。従来目標は民主党のマニフェストに反映させて50%でしたけれど、1989年度以降1度も50%に上回ったことがない。現実には4年連続で39%、政府内では見直しを求める声が高まっている。何のことはない。目標を掲げたって、出来っこないと最初から諦めました。で、撤退した。色々書いてあるけれど、こういう風に新聞は、言葉を言い換えて何となくもってもらいたい書き方するから、おっかない。

最近の新聞は、互いの読者を取り込もうと各紙キャンペーンをしていったら皆離れてしまった。朝日の読者離れより読売の読者離れの方が遥かに多い。人の不幸につけこむからだと思います。書き方も悪いですね。社説を読めば、よく分かる。朝日も読売も社説は酷いと私は思っています。どうぞお読みください。

それぞれの新聞の社説をご覧になると面白いですよ。自分の素の感覚で見ると色々な新聞社の根が見えてきます。記者が渋々、嫌々書いたか。上から言われて仕方がなく書いたか、そこらへんが見えてくれば新聞も面白く読めます。そんなことで国債と自然災害と自公政権のちょっとおかしい部分、どうぞご覧頂きたい。